

第 22 回観光統計の整備に関する検討会 結果概要

日時：令和 6 年 12 月 16 日（月）10:00～11:15

場所：オンライン開催

要旨：

○「宿泊旅行統計調査」調査設計等の見直し検討について

- ・層化基準の変更は、調査開始当初からの課題であった。サンプルサイズを変更せずに、現行調査よりも精度が良化しているので異論はない。一方で、調査票の第 3 号様式を削除することのだが、どの地域からの訪問か、比率を把握できるだけでも有用であり残した方がよいのではないか。
- ・回答の偏りや精度に課題があるのであれば、ビックデータ等の掛け合わせで補完できる余地がある。一方で第 1・2 号様式はしっかりと回答いただき、精緻なデータが取れると良い。インバウンドについて、客室数が少ない宿泊施設には国籍（出身地）を確認しないことになっているが、もし施設側の負担にならないのであれば、インバウンドは特に大事なデータなので施設全体に確認するという選択肢があっても良いと思う。
- ・旅行・観光消費動向調査でも旅行者の居住地データを取得しているが、需要側統計でありサンプルも限られるので、県間移動の状況については、宿泊旅行統計の第 3 号様式のような形で、施設側からデータを取得するのが望ましい。宿泊をしない旅行者については、旅行・観光消費動向調査のデータで確認してもよい。
- ・第 3 号様式は可能であれば残していただきたいが、精度の低さや施設側の負担が大きいのであれば拘るものではないので、他を強化して精度を高めてもよい。
- ・標本設計は非常によいと思うが、誤差率の分布図について、ウェイト分布がどのようなものか確認したい。また、客室数が多いにもかかわらず延べ宿泊数がゼロに近い施設がある。外れ値として認識すべきか、別段の事情があると認識すべきか。
- ・現行調査では従業者数が少ない施設の精度が低いと見えていたが、層化変数を見直すことで該当部分の精度があがり、全体の精度もあがったと理解した。その理由として、従業者数は少ないが、稼働率が高い施設が多くあったという理解をした。

○「インバウンド消費動向調査」の見直しの状況について

- ・QRコードを用いてラウンジで簡単な意識調査を別途実施し、この結果をもとに、消費額を補正するといった検討はできないか。インセンティブの付与を条件とすれば回答が得られるのではないか。
- ・インバウンド消費動向調査は、タブレットを持った調査員が1人当たり30分程度時間をかけて聞き取りを行っている」と承知している。調査の現場の意見等を踏まえて改善が図られているのか。
- ・中東・メキシコ・北欧市場の追加について異議・異論はないが、イスラエルは中東又はヨーロッパのどちらに入れるか話題になる可能性があるので留意が必要。
- ・QRコードのアイデアの一つとして、アンケートに答えると空港でのWi-Fi接続が無料となる事例がある。同様のインセンティブがあれば最後まで答えてくれる可能性がある。しかも人が介在しないので人件費も掛からない。
- ・将来的な検討課題だが、従来調査で得られたデータを、QRコードを用いたアンケート調査で得られたデータで補完できれば良い。一般客層と富裕層との消費額を得ておく必要があると思う。また、中国を一括りするのではなく地域別に分けられないか。居住地域別の違いを把握できると良い。

○「インバウンド消費動向調査」の個票データ提供状況について

- ・多くの方に利用されていて嬉しい。大学生や高校生でもデータを利用できるのであれば、学生向けにコンペなどを開催しても良いのではないか。何事も周知が大切なので検討してはどうか。
- ・素晴らしいことで、これほどマイクロが使える調査はあまりないのでニーズがあるのはよくわかる。データを分析したアウトプットについて、利用者に報告を約束させて情報を集める仕組みにすれば、観光庁に研究事例が自動的に集まりライブラリーが形成される。それ自体が高い価値を持つので、こうした仕組みづくりの検討をしてはどうか。
- ・今後も引き続き数値は提供いただきつつ、長期的なスパンで状況を見極めてほしい。来年度になれば1年分のデータが蓄積され、論文等での使用も増えてくると思う。また、学生が1人1人申請するのは手間なので、授業で使う場合はパッケージで使える等があれば利用しやすい。

以 上